

産業からひもとく“今”と“未来”

やるね



板橋

板橋区産業情報ガイドブック



公益財団法人 板橋区産業振興公社

ごあいさつ

板橋区は、東京23区のうち北西部に位置し、広大な河川敷を有する荒川や、美しい桜の木が立ち並ぶ石神井川など、水と緑に囲まれた彩り豊かな街です。その環境を活かし、独自の発展を続けてきた精密・光学機器や印刷関連産業は、板橋区の地場産業であり、都内でも有数の工業集積となっています。

一方、中山道や川越街道の旧街道沿いには仲宿や大山、上板橋などの商店街が形成され、にぎわいのあるまちづくりを創出してきました。また、都内における貴重な生産緑地では、都市農業が営まれ、緑の保全や区民生活へのうるおいの提供などに貢献しています。

本書では、さまざまな変遷を経ながら輝き続ける企業や人々の暮らしに密着した企業など、板橋の特長ある企業をご紹介します。製品や技術の紹介にとどまらず、企業で働く“人”に焦点をあて、読みやすく、わかりやすい内容にすることを意識して作成しました。

現在、板橋区では、産業の将来像を『未来を輝かせる産業文化都市・いたばし』として掲げ、「経営力の向上」、「小さなブランドづくりの積み重ね」、「まちづくりとの連動」の3つの観点から産業振興に取り組んでいます。本書を通じて、企業の皆様の熱意や板橋の産業の魅力を感じていただければ幸いです。

むすびに、発刊にあたり、貴重な資料の提供や取材にご協力をいただきました企業と関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人板橋区産業振興公社理事長
(板橋区長)

坂本 健



目次

いたばし・ものづくりの歩み 3

"ものづくりの板橋"の礎 光学 5

株式会社トプコン 6
株式会社清原光学 7
特別対談“光学のいたばし”を語る 8
・日本特殊光学樹脂株式会社
・株式会社ユーカリ光学研究所

付加価値をデザインする 印刷 10

凸版印刷株式会社 11
株式会社オフセット岩村 12
【コラム】 まだまだあります 板橋の産業（観光） 13

世界のキーテクノロジー 医療機器 14

株式会社デンテック 15
有限会社一木医療器製作所 16

時代を問わず求められる力 技術力・職人技 17

株式会社技光堂 18
株式会社ヒカリ 19
柳澤管楽器株式会社 20
株式会社ダイワハイテックス 21

多様性と新しい価値観 働きがい・働き方改革 22

株式会社TOK 23
三興塗料株式会社 24
株式会社サンレモン 25
ニュースサービス日経常盤台 26
【コラム】 まだまだあります 板橋の産業（商業） 27

豊かな人生をかたちにする 暮らし 28

株式会社タニタ 29
ホグレル株式会社 30
株式会社y-brace 31
仲吉商事株式会社 32
リンテック株式会社 33

持続可能な社会を実現させる 環境 34

株式会社日進産業 35
株式会社太陽油化 36
株式会社マップ 37
日本カーボンマネジメント株式会社 38

日本だから求められる 防災・安全 39

株式会社エイアイティ 40
株式会社ワカйда・エンジニアリング 41
【コラム】 まだまだあります 板橋の産業（農業） 42

あしたを創る 社会貢献 43

大村製本株式会社 44
日本エンドレス株式会社 45

企業の未来をサポート 支援機関 46

板橋区立企業活性化センター 47
板橋産業技術支援センター 48
理化学研究所 板橋分室 48
区・公社事業のご紹介 50

アイコンについて

企業・団体の紹介ページでは、その企業・団体の事業分野や力を入れている項目などをアイコンで示しています。それぞれのアイコンの意味は、次の通りです。

光学 光学

印刷 印刷

医療機器 医療機器

技術職人 技術力・職人技

働きがい 働きがい・働き方改革

暮らし 暮らし

環境 環境

防災安全 防災・安全

社会貢献 社会貢献

企業支援 支援機関

いたばし・ものづくりの歩み

板橋区の南東部には、『加賀』や『金沢』という地名があります。これは江戸時代、加賀藩下屋敷平尾邸がこの地に広がっていたことに由来しています。中山道板橋宿に面し、江戸最大の約21万8千坪の広さを誇った平尾邸は、明治時代になると、跡地の一部に日本初の官営火薬工場である陸軍板橋火薬製造所が建設され、板橋の近代的なものづくりの原点となりました。

火薬製造所では、近代的な火薬生産に加え、火薬に関する最先端の科学技術研究を行っていました。またその設置により、周辺の地域に多くの民間の中小工場が生まれ、育まれていったことも見逃すことができません。

せん。

大正12(1923)年、未曾有の被害をもたらした関東大震災は、板橋の産業の歴史をも大きく揺り動かせました。震災後、東京市は帝都復興計画を策定し、大規模工場を建築できる『工業地域内甲種特別地区』に志村地域を指定し、東京光学機械やローヤルセルロイドなどの大工場が板橋に進出する契機となりました。

今や世界の最先端に行く優れた製品や技術が根付く『産業文化都市いたばし』。地域の歴史を振り返ることは、未来のものづくりを考える大きなヒントになることでしょう。

国史跡に指定！ 陸軍板橋火薬製造所跡



平成29(2017)年、板橋区加賀一丁目7、8番地に所在する区立加賀公園、旧野口研究所跡地(上)、旧理化学研究所板橋分所跡地(下)が、『陸軍板橋火薬製造所跡』として国の史跡に指定された。

町なかに残る産業遺産 圧磨機圧輪記念碑



明治9(1876)年、世界でも最新の火薬製造機械だった圧磨機圧輪を利用して、板橋火薬製造所が開設された。現在、圧磨機圧輪はモニュメントとして、加賀西公園(加賀)に残っている。

板橋区史跡公園(仮称)の整備



板橋区は、国史跡『陸軍板橋火薬製造所跡』を保存・活用し、いたばしの歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らうことができる史跡公園として整備をめざしている。

[年表] いたばし・ものづくりの歩み

年代	板橋区のものづくりの歩み	社会の動き
明治	<p>板橋区近代工業の発祥</p> <p>板橋区の伝統工業 伸銅工業</p>	明治維新
1876 (明治9)	加賀藩下屋敷跡に陸軍砲兵本廠板橋属廠 (後の板橋火薬製造所) が設けられる	
1917 (大正6)	民間での火薬製造を許可	
1918 (大正7)	東京瓦斯志村火薬工場 (志村)、	
1919 (大正8)	大日本セルロイド (小豆沢) などができる	
1923 (大正12)		関東大震災
1925 (大正14)	帝都復興計画 現在の板橋区志村地区が甲種特別地区に指定される	
昭和(戦前)	<p>工場が集積する</p> <ul style="list-style-type: none"> 金門商会 オリエンタル酵母 東京光学機械 大木伸銅 青木メタル 日本特殊鋼管 (現・日本製鉄の前身) 高砂鐵工 凸版印刷 <p>軍産業の拡大</p> <p>区の代表的な工業として発展</p> <p>板橋火薬製造所の稼働が終了する</p>	
1929 (昭和4)		
1930 (昭和5)		
1932 (昭和7)		
1933 (昭和8)		
1935 (昭和10)		
1936 (昭和11)		
1937 (昭和12)		
1945 (昭和20)	平和産業への転換	終戦
1950 (昭和25)	<p>工場が急増</p> <ul style="list-style-type: none"> 光学・精密機器 板橋区の地場産業に 化学工業 区内最大出荷額 伸銅工業 国内シェア30% 	朝鮮戦争
1964 (昭和39)	<p>環境問題の表面化</p> <p>印刷関連工業 区内最大業種に</p> <p>印刷産業展</p> <p>移転・廃業相次ぐ</p>	高度経済成長 東京オリンピック
1973 (昭和48)		オイルショック
1982 (昭和57)		
1985 (昭和60)	円高による競争力低下	プラザ合意
1989 (平成元)	長引く不況	消費税導入
1990 (平成2)	産業構造の変化	バブル経済崩壊
1997 (平成9)	情報技術の進展	金融危機
2005 (平成17)	板橋区産業活性化基本条例施行	
2008 (平成20)	IT (情報技術)、健康・医療・福祉などの産業への期待	リーマンショック
2011 (平成23)		東日本大震災
2016 (平成28)	板橋区産業振興構想2025策定	

参考資料：2010年板橋区リーディング企業ガイド

板橋区といえは 光学技術です!

光学系技術の蓄積を武器に
それぞれの道を歩む

“今”に
受け継がれる
伝統技術



板橋区のものづくりの礎のひとつが“光学”です。戦前、軍需を背景に多くの光学系企業が進出しました。戦後、これらの企業がカメラや測量機、医療機器の製造へと発展していきました。その伝統を受け継ぐ企業が、今も活躍しています。

『光学の板橋』を代表するグローバル企業 “医・食・住”の成長分野で輝く



株式会社 トプコン

1932年創業のトプコン（旧名：東京光学機械）は、旧陸軍向けに測量機や照準器、カメラなどを主に製造、戦後はその光学技術を応用して眼科医療機器などに展開、精密機器メーカーとして発展した企業だ。

1990年代に入ると積極的な海外企業のM&A戦略を通じてGPS技術、建機や農機の制御システムなどを獲得。IoTやネットワークを駆使し、

建設、農業、眼科分野へのソリューションプロバイダーへと成長を遂げた。近年は『“医・食・住”に関する社会的課題を解決し豊かな社会づくりに貢献』を企業理念に掲げ、世界的な高齢化に伴う眼疾患の増加、世界的な人口増加に伴う食糧不足、世界的なインフラ需要増に伴う技術者不足という社会的課題に対処すべく事業を展開している。今や海外販売率80%、社員の70%が外国人というグローバル企業だ。ただし、「基礎は、ものづくり企業に囲まれた板橋でメーカーとして培った力」と自認する、板橋発の世界的企業だ。



広報・IR室 広報・IR部 広報課 中村 孝明 課長

チャレンジ精神がある会社！
創業 80 年を超える
伝統ある
ベンチャー企業経営を
推進しています。

企業データ

板橋区蓮沼町75-1

【TEL】 03-3966-3141 【URL】 <https://www.topcon.co.jp/>

【創業】 1932年

【事業内容】 ポジショニング（GNSS、マシンコントロールシステム、精密農業）、スマートインフラ（計測機器、3次元計測）、アイケア（眼科用検査・診断・治療機器、眼鏡店向け機器）などの製造・販売



注目の商品 医療から農業、インフラ建設までを技術力でカバー



ショールームにあるジオラマ。トプコンの製品が広く社会に役立っていることがわかる。



『食の分野』 農機の自動操舵システム



トラクターや田植え機など農機の自動運転を実現。田植え機に取り付けば正確に直進するため、後方で苗の補充や植え付けの確認に集中できる。後付け可能、また用途に合わせて取り換え可能とスマート農業の普及を推進する。

『住の分野』 作業プロセスを一元管理



測量機による3次元計測からブルドーザーや油圧ショベルの自動化施工、また設計や検査のソリューションまで建設作業のあらゆるソリューションを提供する。

『医の分野』 眼科用の医療機器



米食品医薬品局（FDA）が承認したAIによる糖尿病網膜症の自動診断システム。タッチパネル操作でフルオートに眼底写真を撮影することができ、AIが診断する。

光学機器製造のノウハウが作り上げた『難しいものは清原に』という信頼

株式会社 清原光学



宇宙から地上を観測する超小型人工衛星『ほどうし4号』に搭載された宇宙望遠鏡は、地上にある6mほどの物を判別できる驚異的な機能を誇る。この望遠鏡を作り上げた清原光学は、戦後間もなくの創業以来蓄積してきたノウハウを生かし、非球面レンズの検査用干渉計など、さまざまな光学製品づくりを手がけている。

大学の研究室や大手企業などからの注文に応じ

て製作する一品物がほとんどで、難しい注文にも的確に応じる。一番の強みは、設計からレンズの研磨、組み立てまでの全工程に一貫対応できること。そのおかげで総合的な調整が可能で、ユーザーへの提案もできる。長年の実績から、業界の間でも『難しいものなら清原光学に』といわれるほどの信頼を得る。「高い品質の製品を通して社会に貢献できることに喜びを感じます」と語る篠永社長目の輝きに、ものづくりへの気概が感じられる。

企業データ

板橋区舟渡3-28-10

[TEL] 03-5918-8501 [URL] <http://www.koptics.co.jp/opt/index.html> [創業] 1949年

[事業内容] 光学部品の設計・加工・製造、精密光学機器・精密光学部品の設計・加工・製造、光学システムの設計・制作・設置、レーザー関連機器の設計・制作、光学設計および光学開発、光学コンサルティング

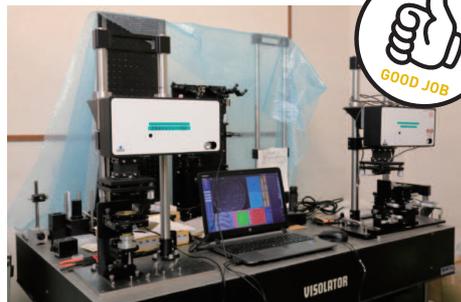
困難を乗り越えて
良いものができた
時の喜びは、何物
にも代えられません。



篠永 浩彦 代表取締役社長



注目の商品 熟練の技で、小さくてもキラリと光る会社として光学機器を製造



口径150mmの宇宙望遠鏡（上）と、非球面マルチカラー干渉計（下）。

経験を生かした研磨



機械によるレンズの研磨（上）では、研磨する時間、研磨剤の種類などの設定に、長年の経験に基づく職人技（右）が発揮される。



高品質を保証する検品



仕上がったレンズを入念にチェックする。ごくわずかな歪みや傷も見逃さないよう、真剣なまなざしが注がれる。

世界的な光学系企業も多く存在する板橋区 『光学=板橋区』をアピールしていきたい!



古くから光学機械メーカーが集まっていた板橋区。現在でも光学技術を生かし、最先端技術を支える企業が多く存在しています。次代を担う若手経営者に、板橋の光学産業について語っていただきました。

日本特殊光学樹脂株式会社
佐藤 公一 代表取締役社長

通信やITの会社勤務を経験したことで、ものづくりの素晴らしさを再認識。父親が立ち上げた会社で経営に励む。

株式会社ユーカリ光学研究所
油 鉄一郎 専務取締役

創設者である父親とともに、会社を切り盛りする後継者。近所に作業を発注できる企業が減ってきているのが悩み。



ニッチな分野で得意なことを生かす

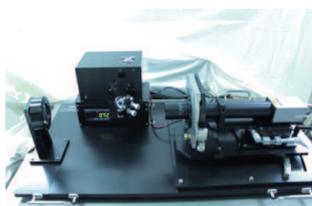
—— 貴社の事業の概要をお教えてください。

佐藤 (敬称略。以下同) 社名通り、光学のレンズを樹脂、つまりプラスチックで作るプラスチックレンズのメーカーです。微細な加工を施すことで、光を集めたり広げたりしてコントロールする機能を持つ特殊なレンズを作っています。

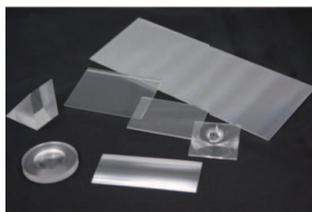
油 当社は光学測定機器などレンズを組み込んだシステムの設計、試作がメインです。家族経営なので工場は持たず、レンズや金物の製作は外部に委託し、組み立てと調整は自社で行います。

—— どのような製品がありますか？

佐藤 メインは野球場の照



赤外線レンズ用MTF測定装置 (YY-306) (株)ユーカリ光学研究所



シートレンズ 日本特殊光学樹脂(株)

明などに使われるフレネルレンズや、自動車のヘッドライトの検査向けのレンズです。最近では、自動運転用のセンサーにも使われています。

油 試作開発がメインなので、基本的にカタログ製品はなく、お客様の要望に沿った一点もの。NDA (秘密保持契約) のために、具体的に何を作っているかをPRできないのは残念ですね。

佐藤 当社も同じです。なので、以前、理化学研究所 (理研) の共同研究グループに協力してフレネルレンズを製作した時、プレスリリース (『NASAの超高エネルギー宇宙線観測実験にフレネルレンズを提供』) に名前が載り、良いPRになりました。フレネルレンズを専門で製造している会社は世界でも10社に満たないほどのニッチな業界ですし、当社が大型のレンズを得意とするので依頼をいただきました。

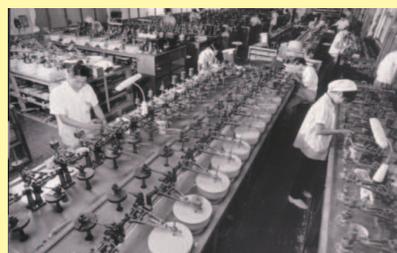
油 当社の得意分野は赤外線ですが、やはり市場規模は小さいので、ニッチな分野です。そのため顧客は全国にいて、大手企業が多いですね。

“光学のいたばし” の源流

板橋区には、明治時代初期から軍需工場が置かれ、大正14年に志村地域が工業地域内甲種特別地区に指定され、化学工場などが進出した。

光学系の企業の進出もこの一環で、双眼鏡などの生産が盛んになった。

戦後もこの伝統が受け継がれ、板橋区は“光学のいたばし”として認知されるようになった。



写真提供：板橋区公文書館

昭和40年代のレンズ研磨工場。

次代を担う経営者が集う『I・NEXT』

—— お二人は、光学系の企業を中心に、板橋区内の若手経営者・後継者が集まった次世代経営者会議I・NEXTの活動もしていらっしゃいますね。

佐藤 私が会長をしています。理研の研究を行っていた大森整先生の拠点が板橋区加賀にあり、そこで取り組んでいた『ものづくり技術継承事業』に参加したことがきっかけです。ここで熱意あふれる方々に出会い、若手が集い研さんを積む場を作ろうと、2013年に発足しました。

—— 実際にはどういう活動をしているのですか？

油 年に3、4回集まって、板橋区ならでは人脈で講師を招いた勉強会や情報交換会などを行っています。板橋区長さんとの対談という貴重な機会もいただきました。

佐藤 I・NEXTのメンバーみんなでものを作ることには考えておらず、各社が実際の案件のなかで連携することを重視しています。実際にI・NEXTをきっかけとした相互交流や、仕事上のつながりが広がり始めていると感じます。私も油さんに助けていただいた事例があります。

油 板橋区産業振興公社さんの新製品・新技術開発チャレンジ支援事業として、『ゲルマニウム製フレネル赤外線撮像レンズ』を開発した時ですね。

佐藤 目に見えない赤外線の扱いに困った時に、「油さんに相談しよう！」と。いざとなったら相談できる仲間がいることは心強いですね。

新技術も必須！『光学』の可能性

—— AIなどの新技術とともに激しく変貌する社会で、光学分野は今後どう発展すると予想しますか？

油 光学系の技術はニュートンの時代から基本的には変わりませんが、現在でも多くの工業の基幹技術なので、

新しい技術も何らかの形で必要とされます。それを示すように、当社が試作開発に関わっているユーザーのほとんどは、光学系以外の電機メーカーです。また、従来、赤外線の需要の多くは防衛関係でしたが、最近はセンサー技術も安価になり民生に下りてきました。すると、赤外線介護施設の利用者が倒れていないか見張るセンサーに使われるなど、より広い分野で需要が増えると予想されます。

佐藤 『いたばし産業見本市』などの展示会に参加した時、お客様からのニーズを聞いて、こちらが想像できなかった分野で、当社の技術が求められていると知ることも多いですね。

板橋区とともに描く未来像

—— 板橋で事業を行うメリットは感じますか？

油 板橋区は、地場産業の振興に力を入れてくれていると感じます。例えば全国から人が集まる光技術の専門展示会『OPIE』では、区として広くて目立つ場所にブースを設け、区内の会社に格安で出展する機会を作ってくれています。毎年、「光学のいたばし」を謳い、同じ場所で同じ色彩の装飾のブースを用意してくれるので、板橋区が光学分野に優れていることが徐々に認知されてきたと思います。

佐藤 当社も毎年参加させてもらっています。新しい顧客からの入り口を板橋区が作ってくれるのは非常に重要だと思います。区の補助金もあり、区内に仲間がいるので、新しい挑戦もしやすい。ありがたい環境だと思います。

—— 今後、望むことは何ですか？

油 東京以外の方に「板橋区です」と言うと「どこ？」と問われることもあります(笑)。「光学に強い板橋だね」とすぐわかってもらえるように認知度を高めていきたいですね。

日本特殊光学樹脂 株式会社



プラスチックレンズの製造・販売を手がける。照明系のレンズに使われるフレネルレンズなど、微細な加工が必要なレンズが得意で、大型まで対応できるのが強み。

企業データ

板橋区連根2-16-10
[TEL] 03-5916-0801 [URL] <https://www.ntkj.co.jp>
[創業] 1974年 [事業内容] 高精度プラスチックレンズ(フレネルレンズ、レンチキュラーレンズ、平面プリズムなど)の製造・販売



株式会社 ユーカリ光学研究所



レンズ1枚から衛星搭載用光学装置まで、レンズを用いたシステムの開発、設計、試作などを手がける。赤外線分野を得意とし、取引先には有名企業や組織が多い。

企業データ

板橋区板橋2-64-10 新生ビル5階
[TEL] 03-3964-6065 [URL] <https://yuCALY.com>
[創業] 1980年 [事業内容] 光学機器(光学測定機器、赤外線光学・レーザー応用光学系の機器・装置、医療関係光学装置、宇宙開発光学装置など)の設計・製造・販売

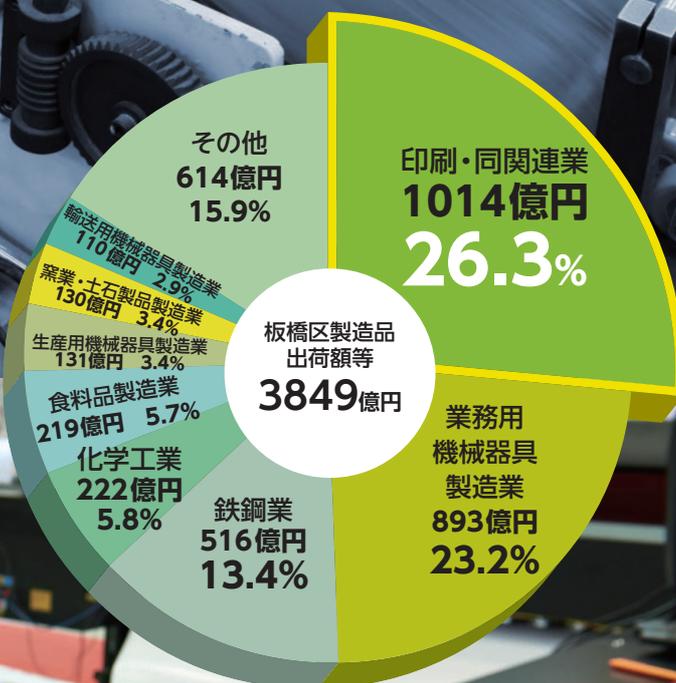


進歩し続ける 技術です!

製造品出荷額等の
トップを占める主要産業



印刷・
同関連業は、
東京23区で
第2位!



出典：平成28年経済センサス
(板橋区のみ抜粋)

印刷・製版・製本などの印刷・同関連業は、板橋区の製造品出荷額等で、最も高い割合を占めています。板橋区は、全国でも有数の印刷・同関連業の集積度の高い都市なのです。そして、印刷業から進歩した技術は、他の分野へも波及しています。

印刷テクノロジーを培って120年 さらなる変革と挑戦を続ける

凸版印刷 株式会社



1900年創業の凸版印刷は、以来、幅広い分野に印刷領域を拡大してきた。1938年には、印刷需要の増加を見据えて大規模な新工場を建設する。その地として選ばれたのが、当時はまだ田園風景の広がる板橋区志村だった。最新の設備を備える板橋工場は、日本の印刷業の発展をリードし続け、凸版印刷は今や国内はもとより海外に約160の拠点を持つ一大企業グループとなっている。

現在は、情報コミュニケーション（セキュリティ／マーケティング／出版関連）、生活・産業（パッケージ／建装材／高機能・エネルギー関連）、エレクトロニクス（半導体関連／ディスプレイ関連）の3つの事業分野を柱とする。

多様化する時代に対応するため、情報とくらしをデザインする『社会的価値創造企業』をめざす同社。長年培ってきた印刷テクノロジーをベース

に、3つの事業分野をコラボさせることでトータルソリューションをもたらし、医療・ヘルスケアや、観光立国・地方創生、環境保全など、社会の課題解決に貢献する。なかでも力を入れているのが、デジタルであらゆるモノとコトをつなぎ、新たなソリューションを提供するT-DX（トッパン・デジタルトランスフォーメーション）によるデジタルマーケティングや製造DXの推進だ。ソフト、ハード両面からさらなる変革と挑戦を続けていく。

現在、そして未来に至るも、板橋工場が重要拠点であることは変わらないだろう。

企業データ

千代田区神田和泉町1（本社） 板橋区志村1-11-1（板橋事業所）
 [URL] <https://www.toppan.co.jp/> [創業] 1900年
 [事業内容] 印刷技術をベースに、情報コミュニケーション分野、生活・産業分野、エレクトロニクス分野で事業を展開

🔦 注目の商品 印刷テクノロジーをベースに社会的価値を創造する多彩な商品

観光立国・地方創生を支援



凸版印刷独自の簡易ヘッドマウントディスプレイ VRscope® ※VRスコープは凸版印刷(株)の登録商標です

凸版印刷を知るスペース



日本各地の国宝や重要文化財などを最先端の技術で表現する『NIPPON GALLERY TABIDO MARU NOUCHI』など、製品やソリューションを展示するスペースも設けている。

高品質のディスプレイ関連商品



ICカード、意匠にも機能にも優れた建装材、ディスプレイ用のカラーフィルタなど、多様な製品で社会を支えている。

最先端の半導体関連商品



板橋区での印刷業発展の礎



世界有数の近代的工場として、1938年に建てられた板橋工場。2万坪余りの敷地に8棟の工場棟があった。洋風庭園や野球場、テニスコート、プールなどの施設も備えていた。

望まれた“色”を表現できる高い技術と 印刷から加工までの一貫した生産体制で発展



株式会社 オフセット岩村

オフセット岩村は、創業以来、アクセスの良い板橋区にあって、芸能やイベント関係のポスターやパンフレットなど、エンタメ系の商業印刷に強い印刷会社として発展してきた。それは、同社が職人の技を磨き、さらに最新の設備を導入したことで、“色”に対して高いクオリティーを求めお客様から大きな信頼を得てきた証し。実際、同社

の制作物を見ると、誰もが知るタレントやアスリート、人気イベント関連の印刷物が並ぶ。

最近では、その技術力の高さを見込まれ、無料の販促物よりも、高額を出してでも購入したいという客層に向けた写真集や、イベントのパンフレットなどの需要が増えているという。「印刷から加工までワンストップででき、ソリューション提案ができる体制を築いてきました。印刷はまだまだ可能性が大きい業種だと感じていますので、これからもチャレンジしていきますよ」と岩村代表取締役は未来を見据える。

色に厳しい
エンタメ系の
印刷物が得意です！
印刷から加工まで
一貫して
お任せください。



岩村 貴成 代表取締役

企業データ

板橋区新河岸1-15-22

[TEL] 03-5921-2291 [URL] <http://www.offiwa.com/>

[創業] 1980年

[事業内容] カタログ、パンフレット、ポスター、チラシ、包装紙、その他一般商業印刷／出版印刷



注目の商品 流通の便が良い板橋の工場でワンストップで仕上げる高品質な印刷物



最新の機能を誇るメインの印刷機。



信頼が提案を可能に

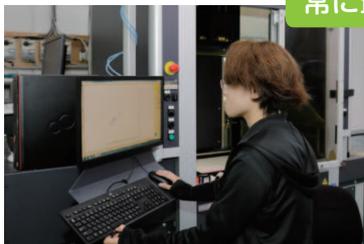
仕上がりに不具合がないよう現場で厳しくチェックすることが、顧客の信頼につながる。だからこそ、印刷のプロとしてのソリューション提案が可能になる。



“違い”を生む職人技

最終的な質の高さを決めるのは、機械ではなく熟練の技術。人を大切にした働きやすい環境で、若手や女性が多く活躍している。

常に最新機械を備える



2018年に導入した最新のガルバノ方式のレーザー加工機。ほかにも、従来は写真業界で使われてきた高性能の業務用フォトプリンターなどを導入。



懐かしさと新しさが “いたばしらしさ”



いたばし
観光キャラクター
りんりんちゃん

江戸時代に中山道の宿場町として栄えた板橋は、街道文化が育まれ、近郊型農村として発展した。板橋区では、その歴史と文化を生かし、史跡公園や産業ミュージアムなどの整備を進め、新たな魅力ある観光資源を生み出してきた。区を訪れる人々が区民のもてなしの心に接し、観て体験することで懐かし

さと新しさを感じてもらうことが区の観光振興の方針だ。

構えて訪れるような観光地とは違い、いつもの暮らしの少し先にあり、普段着で訪れて魅力を感じ、またここに来たいと思ってもらえるまち。板橋は地域一丸となって、その魅力を発信している。

板橋十景に“いたばしらしさ”を感じる

区制施行70周年を記念して、平成15年2月、板橋ならではの自然景観、都市景観、名所・旧跡、イベントを『板橋十景』として選定した。



区名の由来ともいわれる『板橋』



夏の風物詩『いたばし花火大会』



水田耕作の伝統行事『徳丸・赤塚の田遊び』

にぎわい創出事業

区内外から多数の参加者を集める区民まつり、Cityマラソンなどを開催、活気あふれるまちを実現する。また、石神井川の桜などの観光資源を整備するなど、にぎわいの創出を図る。



毎年10月に開催される『板橋区民まつり』



1万5000人が参加する『板橋Cityマラソン』

板橋の魅力を一緒に発見

増加するインバウンドに対応し、観光客のニーズに応じたおもてなしの観光をさらに推進するため、観光ボランティアの育成に取り組んでいる。



いたばし観光ボランティア『もてなしたい』が、区内観光にガイドとして同行し、板橋の魅力を案内する。

高度な 医療技術を 支えます!



先端技術と
職人の経験が
マッチング

精密機械製造の
技術が
医療を保証する

高度な医療技術には、高い品質の医療機器が欠かせません。的確な手術や治療は、医師の技量に負うところが大きいですが、その技量を優れた医療機器が支えています。先端テクノロジーと高度な職人技によって、最高の医療機器が生まれ出されています。

日本初のインプラント治療用ドリルを開発 業界トップを走り続ける110年企業



株式会社 デンテック

デンテックの創業は1907年。木村社長の曾祖父が、金属製のかんざし職人として培った技術を用い、日本初の歯科用ドリルを作ってから、複雑な加工技術や高度なノウハウが必要となる医療器具を手がけてきた。近年は、大学病院の医師からの要望を受け、絶妙な切れ味と耐久性を備えたインプラント治療用ドリルを開発。独自のノウハウ

を確立し、トップクラスのシェアを誇る。木村社長は「開発と、それをカタチにする技術の両方を持つことが当社の強み」と胸を張る。

そしてもうひとつ、優れた品質を認められ世界中で使われているのが『ラバーダムクランプ』という歯科用の器具。海外で多用される治療法に欠かせないため、ロシアや中国など世界30か国以上で使用され、生産が追い付かない状態だ。今後は「外科や動物用の医療器具の製造にも力を入れたい」と木村社長は未来を見据える。



木村 太輔 代表取締役

お客様や
医療現場に対し、
ソリューション提案が
できるのが
強みです。

企業データ

板橋区清水町53-5

[TEL] 03-3964-2011 [URL] <https://www.dentech.co.jp>

[創業] 1907年

[事業内容] 歯科・外科医療用器具の製造・販売／動物用医療器具の製造・販売



注目の商品

インプラント治療用ドリル&海外で知名度大のラバーダムクランプ

インプラント治療用ドリル



かんざしの技術を原点に



第2次世界大戦後すぐに板橋へ。顧客である歯科関連企業や材料の仕入先が近いことがメリットだ。

最新機器と職人技を融合



数値を設定することで、ドリルの刃を自動で刻めるNC旋盤。培ったノウハウがなければ機械は使いこなせない。



ラバーダムクランプの仕上げ。

光る！ベテランのワザ



ラバーダムクランプ

ラバーダムクランプの仕上げには職人の手の感覚が不可欠。機械化で職人の負担を減らし、付加価値の高いスキルを持つ若手を育てる。

日本の外科手術を支えるハサミを作る 名医が信頼する医療機器を生む職人技

有限会社 一木医療器製作所



創業以来70年、手術用の剪刀（ハサミ）など、鋼製の医療機器を専門に作り続けてきた。手術に用いる機器は、患部や用途ごとに細かく種類が分かれるため、定番の製品でも多種多様。さらに同社は、ドクターによる“刃を長く”、“軽く”などのリクエストに応え、5丁からでもオーダーに応じる。高い技術を要し、小ロットにも対応するため、

ほぼ全工程が手作業だという。

そんな同社の製品は、著名な外科医をはじめ、多くのドクターから信頼を獲得。指名での仕事も多く、受注が絶えない。一木社長は自社の強みを「先代の時代から、どんなリクエストにも『できません』と言わないことです」と語る。技術的に難しい要望でも、まずはチャレンジをし、その積み重ねが、他社にまねできない技術力につながっている。今後も挑戦する姿勢を貫きながら、100年企業をめざす。



ドクターの道具を
製作することは
人の命を預かること。
使命感を持って
社会に貢献します。

一木 正俊 代表取締役

企業データ

板橋区蓮根3-9-13

[TEL] 03-3966-1005 [URL] <http://www.ichiki-medical.com>

[創業] 1950年

[事業内容] 手術用の剪刀（ハサミ）、鉗子（患部を押さえたり、止血したりする際に使用するハサミ型の器具）、メス、ピンセットなど医療機器の製造・販売



注目の商品 全国のドクターから信頼される高品質で使いやすい医療機器



赤ちゃん用爪切り『FUTABA』



新生児の肌を傷付けないために開発され、多くの産科で使われている。自家用に入手を希望する家族が多かったため、初の消費者向け商品として販売。1万円の価格でも需要は多い。

手の感覚がすべて！



ほとんどが繊細な感覚が要求される手作業で行われる。東大病院を中心に、医療機器関係の仕事に関わる職人、工具店、問屋があるため、板橋は地の利がある。



使い慣れた道具のメンテナンスも重要



手術用のハサミは、何度も切れる必要はないが、切る時に必ず切れなければ、患者の命に関わる。ドクターが使い慣れた道具の修理も重要だ。

④ 時代を問わず求められる力 ～技術力・職人技～

最高の技が光ります

どんなに機械化が進み、AIが発達しても、人間の技術に委ねられる部分がなくなることはないでしょう。機械では実現できない微妙な調整能力は、“職人技”と呼ばれ、今も確実にものづくりを支えています。

人の手
ならではの
技術が
冴えわたる



職人ならではの
技術を受け継ぐ

シルク印刷の技術で樹脂素材を金属調に！ 世界に誇る『METALFACE』

株式会社 技光堂



1964年に製版会社として誕生し、印刷から加工まで一貫して手がける印刷会社へと発展した技光堂。なかでも特殊印刷を強みとする同社が、2019年に開発した『METALFACE』は、世界で唯一無二の技術だ（特許申請中）。これは、透明な樹脂に印刷すると本物の金属に見える技術で、光も電波も通す。本来、金属は光も電波も通さないが、この樹脂を家電のデジタル表示部やカード

リーダーなどに用いれば、金属調でスタイリッシュな見た目、光が浮き上がり、多様なモノと通信でつながるIoT時代にふさわしい製品ができる。

各種メディアにも紹介され、「展示会に出展すると、大きな反響があります」と言う佐野社長。国内の自動車や家電のメーカーをはじめ、世界の名だたる企業から引き合いが相次いでいる。『METALFACE』として、自社のオリジナルブランドでも展開中だ。

常にチャレンジを続けてきたことが新しい技術開発につながったと自負しています！



佐野 雅一 代表取締役社長

企業データ

板橋区板橋2-15-3

【TEL】 03-3962-2324 【URL】 <http://www.gikodo.co.jp>

【創業】 1964年

【事業内容】 企画、デザイン、製版、特殊印刷に付帯・関連する一切の製品の製造・販売



注目の商品 IoT時代のインターフェイスに最適な『METALFACE』



『METALFACE』は、インクを1色ずつ重ねていくシルク印刷で行う。機械だけに任せられない、職人技が必要な技法。

光も電波も通す金属！？



充電器（左）とカードリーダー（右）。金属にしか見えないが電波も電気も光も通すので、従来の金属ではできない多様な使い方が可能になる。

顧客からの多様なニーズに対応



最新設備を整え、医療機器の操作パネル表示などを多く手がける。顧客のニーズに応えることが技術力の向上につながる。

世界20か国以上のプロが愛用！ 職人の手づくりが冴える理美容用ハサミ

株式会社 ヒカリ



ヒカリの原点は、理容師であった創業者が、理想のレーザーとハサミを作るために研究を重ね、日本刀の構造（蛤刃）で特許を取得したことに遡る。当時、蛤刃のハサミを作れるメーカーがなく、自ら製造を始め、切れ味が良く1年間研ぐ必要がないハサミを完成。全国の理美容師に実演販売するうちに、従来品より高い価格でも、口コミで飛ぶように売れるようになった。



高橋 伸一 代表取締役

世界の
理美容師さんが
感動する製品を
作ることが、
私たちの使命です！

そのハサミを製造販売する前身の会社を板橋で創業して50年超。「今や理美容のハサミでは蛤刃がスタンダードです！」と胸を張る3代目の高橋社長自身も、美容師として経験を積んだ後に入社。カット技術の実演をしながら、国内外を飛び回り、商品の良さを紹介している。

世界20か国以上で販売され、業界をリードする企業となった今も、手づくりにこだわり、ユーザーが使いやすいハサミの開発を怠らない姿勢が貫かれている。

企業データ

板橋区幸町25-8

【TEL】03-3973-1626 【URL】<http://www.hikari-scissors.com>

【創業】1967年

【事業内容】理美容シザーズ製造販売、キューティクルニッパー製造販売など



注目の商品

コンピュータを超える職人技で、プロも納得の切れ味を実現



豊富なラインナップ



代表製品が並ぶエントランスのオブジェ。34シリーズ、113種類のラインナップがそろい、毎年新製品を発売する。

手厚いアフターフォロー



新潟工場は製品づくり、東京工場は修理がメイン。国外で販売した製品でも研磨など充実のアフターサービスを実施する。



職人の手作業が光る

10以上におよぶ工程のほとんどが手作業。2本の刃の微妙な曲線を職人が手で調整して独特の切れ味を実現する。

板橋の地で連綿と受け継がれてきた プロのサクソフォンづくりの矜持

柳澤管楽器 株式会社



日本の管楽器製造は、柳澤徳太郎初代社長が、1896年に軍楽隊の輸入管楽器の修理を手がけたことに始まったという。以後、目まぐるしく移り変わる時代のなかで、一貫して妥協しないものづくりを続けてきた同社は、サクソフォン製造において世界三大メーカーのひとつに数えられる。700にもおよぶ部品からなるサクソフォンは、すべての工程で手づくりされている。

「私たちは、カタチだけを作っているわけでは



柳澤 信成 代表取締役社長

プロの演奏家が
「これじゃなきゃ
だめだ」と言う
楽器づくりを
めざしています。

なく、音を作っています。利益や効率を求めすぎると、本当に作りたいものからずれてしまいます。私は今でも楽器づくりに満足していません。常にもっと良いものができると思って取り組んでいます」。管楽器づくりのDNAを受け継ぐ柳澤社長は、ものづくりへの思いをそう語る。

最近では漆塗りのサクソフォンを製造するなど、新しい試みにも挑んでいる。長年板橋の地で受け継がれてきたサクソフォンづくりの精神は、伝統と進取の気風があいまって、これからも脈々と受け継がれていくに違いない。

企業データ

板橋区小豆沢2-29-5

【TEL】 03-3966-9501 【URL】 <http://www.yanagisawasax.co.jp>

【創業】 1896年（1961年に株式会社へ改組）

【事業内容】 サクソフォンの製造・販売



注目の商品

“理想の音を奏でる” 楽器づくりに全身全霊を込めて



すべての工程は、繊細な技術を要し、気の抜けない作業だ。各パーツは、ミリ単位の精度で組み合わされる。

ものづくりに妥協なし



80人の職人が分業し、それぞれの工程に責任を持って組み立てていく。ねじなどの部品も自社で製造することにこだわりを持っている。

チャレンジ精神も旺盛



日本の伝統工芸である漆工芸とのコラボで作った漆塗りのサクソフォン。金属に漆を密着させるのが難しく、試行錯誤の末に完成させた。



力を入れている項目

技術
職人
働き
がい

書店・通販業界を支える包装機を開発！ ニーズを的確に捉えた提案力が強み

株式会社 ダイワハイテックス



ダイワハイテックスは主に『コミックシュリンカー』と『バブルシート包装機』の開発・製造・販売を手がけている。『コミックシュリンカー』とは、書籍をきれいに保つためにフィルムで包む機械で、書店で用いられる。同社の大石孝一会長がその原型を開発して以来約40年、開発から製造、販売、アフターサービスまで一貫して行うビ

ジネスで市場を開拓し、シェア90%を占めるまでに発展した。

『バブルシート包装機』とは、ネット通販で購入された商品を包装する機械で、通販市場の増加を契機に2014年ごろ開発された。書籍包装の技術を利用し、顧客の事情に合わせて行う梱包システムの提案が評判となり、業界での知名度ゼロから急成長。顧客には大手通販業社も多く、消費者にも身近な技術だ。「2つの事業を軸に新たな展開も見据えています」と言う大石社長。創業時から変わらない挑戦する姿勢が買われている。



大石 智也 代表取締役

培ったノウハウを活用し、
みんなでアイデアを出しながら、
新たな業界の開拓に挑みます！

企業データ

板橋区坂下1-34-27

【TEL】03-3558-8131 【URL】<http://www.daiwa-hi.co.jp/>

【創業】1978年

【事業内容】本・コミックおよび物流改善のための包装機械、梱包資材、書店用関連備品、省力化機械、制御用品機械の開発・製造・販売

★会社見学を随時受け付けております！



注目の商品 『コミックシュリンカー』と『バブルシート包装機』



『コミックシュリンカー』
これまで約5000店の書店が導入。写真は代表機種RAPO1400。



通販業界を支援する包装機

発送業務の効率を上げるための梱包システム。商品を置くだけで封筒状に梱包してくれる『バブルシート包装機』は、小型かつ機能的な点が魅力。毎月140万件以上の商品を全国で梱包している。

メンテナンスも重要視



手厚いメンテナンスは、顧客ニーズと信頼をつかむ重要な役割を担っており、同社が最も大切にしている業務である。

明るく、働きやすい 職場です

みんなの笑顔が
見られることを
めざして

働きがい
が
感じられる
職場で生き生きと



働き方改革が進む中、企業には従業員がやりがいを持って働ける環境を整えることが求められています。そのアプローチには、オフィス環境の整備といったハード面と、制度の構築といったソフト面との両面があります。従業員のモチベーションを引き出すことが、企業の発展につながります。

オフィスの整備と働きやすい制度の導入で『社員一人ひとりの働きがい』を引き出す

株式会社 TOK



板橋製品技術大賞



コンビニの棚の引き出しなどに使われるベアリングをはじめ、幅広い分野で使われる機械部品を製造するTOK。2018年3月の本社移転を機に、社員が働きやすいオフィスを実現した。その雰囲気は、おしゃれなカフェテリアを思わせる。

「以前は部署ごとに部屋が別でしたが、新オフィスでは全員がワンフロアに集い、部署内での席

は自由です。音楽を流してリラックスできるようにし、食堂で温かいものが食べられるようにしました。食堂での仕事も自由です」と語る吉川社長。この環境で社員間のコミュニケーションが活発になることを期待したという。ほかに、6時半～10時半の中で出勤時間が選べる時差出勤制度や1時間単位で休暇が取れる時間休制度、1年に2回まで会社負担で通信教育講座が受講できる研修制度などの福利厚生も充実。「社員がより働きやすい環境を作るなど、人材への投資を行うことが業績の向上にもつながると思います」との言葉から、社員を大切にする会社の理念が感じられる。

企業データ

板橋区小豆沢1-17-12

【TEL】 03-3969-1531 【URL】 www.tok-inc.com

【創業】 1925年

【事業内容】 メカニカルコアパーツの開発・製造・販売

働きがい・働き方を改善することで、社員一人ひとりが能力を発揮してくれることを期待しています。



吉川 桂介 代表取締役社長



注目の活動

社員を思いやり、働きやすい環境を作り上げる



開放的で清潔感あふれるオフィス。お互いの顔が見え、コミュニケーションが取りやすい。

食堂での打ち合わせも



食堂では昼食はもちろん、社内の打ち合わせも可能。集中して仕事をしたい人が利用することもあるという。かたわらには卓球台があり、リフレッシュできる。

時差出勤などの制度も充実



出勤時間が選べるので、社員が時間の使い方を工夫するようになり、残業時間が減ったという。

真摯なものづくり



ものづくりを支える工房では、真剣なまなざしで開発に取り組む。

『一生社員と家族を守る』を経営理念の第一に掲げ、働きやすさを追求

三興塗料 株式会社



主に建築関係の塗料を扱う三興塗料は、経営理念のひとつに『社員の幸せを追求し、人間性を高める』を掲げ、清水社長は『一生社員と家族を守る』と宣言している。このことからわかるように、同社では社員の働きがいに心を砕いている。年に1回開かれる経営計画発表会では、財務内容もオープンにして1年間を振り返るとともに、次の1年の方針を社長自ら社員に語りかける。また、月曜朝礼では前週の振り返りや提案などを行い、

情報共有を図る。これらは、社員が明確なビジョンを持ち、目標達成に向けて一丸となるために取り組んでいる内容だ。社内イベントも多く、家族同伴での東京ディズニーリゾート®旅行やボウリング大会、懇親会などが実施される。その取り組みが評価され、『平成29年度いたばし働きがいのある会社賞』を受賞している。

「社長の考えを示すことで、社員や家族に安心してもらうことができ、社員の意識も変わり、業績にも反映されています」と、社員の働きやすさを考えてきた清水社長の目が輝く。

高い目標を
みんなで達成する
ために、社員が
働きやすい環境を
整えています。



清水 雄一郎 代表取締役

企業データ

板橋区前野町3-50-2
【TEL】 03-3965-4116 【URL】 <http://sanko-tokyo.co.jp>
【創業】 1966年
【事業内容】 塗料、防水材、塗料用具の販売



注目の活動

働きがいととも、社会貢献にも積極的に取り組む



経営計画発表会には、全社員が参加して、社長のビジョンを聴く。会社の方針が明確になり、自身の役割がはっきりする。

社員や家族の絆を強くする



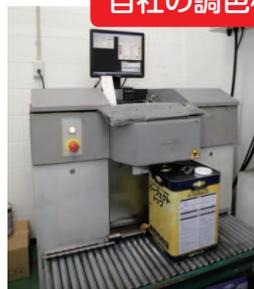
東京ディズニーリゾート®旅行は、社長の発案で始まった。社員の家族や、その子どもの成長が見られる良い機会だ。

ボランティアで社会貢献を



ボランティアで、地域の学校の教室内部の塗装をしたり、町の落書きを消すなど、社会貢献にも力を入れている。

自社の調色機で迅速対応



自社で塗料の調色ができ、建設現場にすぐに配送することができる。迅速な対応は日本一を自負している。

社員教育に力を入れ、社員の声を聴く 社員の幸せを最優先に考える会社

株式会社 サンレモン



1968年の創業以来、地域のクリーニング店として発展しているサンレモン。今や東京・埼玉に7つの事業所（工場）を展開し、成増の本店をはじめ、運営店舗は直営店45店舗、取次店47店舗におよぶ。15年ほど前からは、クリーニング技術の向上に力を入れ、高品質な仕上がりの店として信頼を得てきた。

同社のモットーのひとつが『お客様を大切に』。伊藤社長はその上で「一番は社員とその家族が幸せになることです」と語る。社員が幸せになって初めてお客様に還元できる。そのため、クリーニング技術や接客のスキルを上げるための社員教育に力を入れ、面談やアンケートで社員からの要望や提案を聴く体制を整えるなど、社員が輝くための環境づくりに取り組んできた。ベテランも若手もイキイキと活躍する活気ある現場が取り組みの成果を物語る。

企業データ

(板橋区内事業所) 板橋区成増4-40-10 他多数
(本部) 埼玉県朝霞市栄町2-2-3
[TEL] 048-461-0485 (代表) [URL] <http://www.sunlemon.jp>
[創業] 1968年
[事業内容] クリーニング、衣類のリフォーム、靴・バッグの修理



社員が安心して働ける、
持続発展する企業こそが理想。
あと50年！100年
企業をめざします。

伊藤 賢太郎 代表取締役社長

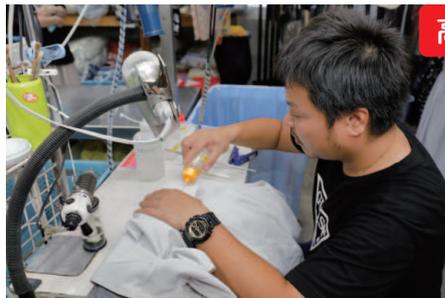


注目の活動

教育体制の充実で、社員が自信と誇りを持って活躍できる職場に！



大切な服を対象にした高級クリーニングも人気。ベテラン部長が腕を振るう。



高い技術を培う教育

シミ抜きもサンレモンの得意技術。国家資格のクリーニング師は社員のほぼ全員が取得している。



仕上がりにこだわる



同業他社が研修に訪れ、仕上がりの良さに驚くとのこと。特に重要視するのは扱う数の多いワイシャツ。

お客様第一は接客から



接客技術向上のための研修会も頻繁に実施。難関のクリーニングアドバイザー資格の取得者も20名におよぶ。

留学生を積極的に採用し、充実のサポートも！ やりがいを感じる職場づくりを実現

ニュースサービス日経常盤台



ニュースサービス日経常盤台は日本経済新聞の専売所（新聞販売店）で、毎日新聞も扱う。多くの販売店と同様、新聞奨学生が配達業務を担っているが、同店の特徴は奨学生14名すべてが留学生であることだ。出身国はベトナム、モンゴルが多く、加えてネパール、韓国の4か国。新聞社の寮で暮らし、日本語学校、専門学校、大学で勉強

しながら配達をしている。

ベトナムをはじめ、元気な国の若者を支援したいという気持ちで留学生を積極的に採用してきた井上所長。法定労働時間などの厳守はもちろん、「スタッフ一人ひとりをしっかり見ることを重視しています」と語る。見て知ることで、各自の適性に合った仕事を任せ、やりがいを感じられる職場づくりに努めてきた。最近では、『まごサボ隊®』という軽作業・家事サービスも開始。地域に貢献する新しい新聞販売店をめざす。

企業データ

板橋区前野町3-31-7

【TEL】 03-3967-5410 【URL】 <http://nsn-tokiwadai.com/>

【創業】 2007年

【事業内容】 日本経済新聞、毎日新聞の販売・配達 / 『まごサボ隊®』(短時間の家事手伝い、および軽作業サービス)



井上 啓一 所長

「いたばし 働きがいの会社賞」をいただき、とても励みになりました！



注目の活動

留学生や女性が安心して働ける、ダイバーシティあふれる新聞販売店



学ぶ意欲の高い学生の集まり

出身国の日本語学校などと連携し、一定の日本語力と意欲の高い留学生を受け入れるシステムを確立している。

充実した毎日を支援



留学生は空調完備の個室の寮を拠点に、仕事と学生生活を両立させている。夕刊が店に届くと、テキパキと店内に運ぶ。

女性が多い職場



社員・新聞奨学生を合わせたスタッフの6割が女性。産休・育休を取得している社員もいて、女性が働きやすい職場でもある。

食べ歩き、お祭り…… 活気あふれる商店街



地域の商店街に活気があるのが板橋区の特徴のひとつ。区内にはなんと90もの商店街があり、セールやイベント、お祭りなど、趣向を凝らした催しを企画して集客に努めている。もちろん普段の姿も魅力的で、惣菜やスイーツの食べ歩きをしたり、ウインドーショッピングを楽しんだりする人たちが絶えない。

地元の人だけでなく、区外から足を延ばす人も幸せになれる場所。それが板橋の商店街なのだ。

サンバ、よさこい、へそ祭り。 板橋の商店街は1年中熱い!



区内最大のショッピング街。大山駅から約560mにわたってアーケード街が続く。ポイントが貯まるハローカードを発行。



志村坂上交差点から城山熊野神社へ向かう通称『しむらん通り』は、名店ぞろいの商店街。夏はサンバで盛り上がる。



板橋の“へそ”を自認する商店街では、名物へそ祭りをはじめ、1年中わいわいがやがや。



全国15地域の名産品が手に入るショップ。1500点を超える品物を見るだけでもわくわくする。



200店舗以上が集まる商店街。愛称は『マイスターかみいた』。秋には『よさこいinかみいた』が熱い。



あらゆる人の 立場に立った 製品づくりを

充実した生活を
企業が後押し



きらきら輝く
暮らしを応援する

健康で、豊かな毎日を過ごしたい。それは、あらゆる人々に共通する願いではないでしょうか。健康づくりのための機器やサービス、障がいのある人が快適に過ごせるための装具、楽しい食卓を演出する食器など、さまざまな面から、暮らしを応援する企業があります。

体組成計を開発し健康市場をリード 健康を『はかる』から『つくる』へ

株式会社 タニタ



タニタは、体組成計や活動量計など、健康計測機器の製造・販売、さらにタニタ食堂などの健康サービスを提供する健康総合企業として知られる。戦後アメリカの家庭にある体重計を見て、将来日本でも体重をはかって健康管理をするニーズがあると予見。1959年、体重計をヘルスメーターと名付けて、製造・販売を開始した。1992年には世界で初めて体脂肪計を、2003年にはさらに詳

しくからだの組成成分を知ることができる体組成計を製造・発売。世界初の商品を次々と開発し、市場をリードしてきた。

最近力を入れているのは、健康をはかる機器に加えて、『健康をつくる』サービスだ。カード型活動量計を利用して、健康への関心が低い層にも健康づくりを促すタニタ健康プログラムや、健康への意識が高い層のニーズに応える脂肪燃焼モニターなど、新技術や新サービスを次々に打ち出し、注目を集め続けている。



より多くの方に、
健康づくりに取り組んで
いただける機器や
サービスを提供して
いきます。

ブランディング推進部 広報課
名倉 麻衣 課長代理

企業データ

板橋区前野町1-14-2

[TEL] 03-3968-2111 [URL] <https://www.tanita.co.jp>

[設立] 1944年

[事業内容] 家庭用・業務用計量器（体組成計、ヘルスメーター、クッキングスケール、活動量計、歩数計、塩分計、血圧計、睡眠計、タイマー、温湿度計）などの製造・販売



注目の商品 次世代の健康づくりのソリューションとなる機器&サービス



タニタ健康プログラム

2009年、社員を対象に『タニタ健康プログラム』をスタート。リフレッシュラウンジには、体組成計や血圧計、計測状況などがわかるサイネージがある。



活動量計機能を備えた社員証を認証キーにして、体組成計や血圧計の計測データの結果がサーバに送信される。サイネージでは社員の歩数ランキングなどが確認可能。



意識が高い層向けの 脂肪燃焼モニター

呼気で脂肪燃焼度をはかる機器を近く発売予定。アスリートやダイエット中の人などのトレーニングや食事管理に役立つ。

ヘルシーな食を 提供するタニタ食堂



本社の食堂をもとに、一般の人向けのレストランを全国展開。『タニタカフェ』も始まった。

自社開発した“予防”フィットネスマシンで医療・介護の現場での身体づくりに貢献

ホグレル 株式会社



ホグレルは、一生涯動ける身体を作るためのフィットネスマシン『Hogrel』の開発・販売を行っている。これは、スノーボード競技のプロ選手として活躍していた向川社長が現役時代、試行錯誤しながら筋力トレーニングを続ける過程で得た気付きをもとに開発された機器。筋肉を強くするのではなく、柔軟性を高めることで動作を改善す

る。また『Hogrel』を使ったジム『ホグレルスペース』の運営も行っている。

当初はアスリート向けだったが、現在は全国の病院、介護施設、フィットネスクラブなど、約600の施設にも導入され、医療や介護の現場での普及が加速している。「高齢の方々が熱心にトレーニングされ、成果が出た時に喜んでくださるのがうれしくて」と、向川社長。今後は介護の分野にも力を入れ、予防医療ならぬ予防フィットネスを広めることで、社会貢献、地域貢献をめざす。

医療・介護の現場で
“痛みのない身体”
“一生涯動ける身体”
づくりに貢献したい！



向川 是吉 代表取締役

企業データ

板橋区大原町36-18 ホグレルビル
【TEL】 03-5970-7833 【URL】 <http://www.hogrel.com/>
【創業】 2003年
【事業内容】 フィットネス機器『Hogrel』の開発・販売／フィットネスマシン『ホグレルスペース』の運営



注目の商品

インナーマッスルをほぐし動ける身体を作るマシン『Hogrel』



目的に応じた各種マシン

力を抜いた状態で、マシンの軌道に従って動くことで、肩甲骨や股関節、骨盤の周りの筋肉を動かすことができる。

硬式野球部活躍にも貢献！



独立リーグを経験した社員（現監督）が、社長に直訴して野球部を設立。監督を筆頭に、『Hogrel』を使うことで故障から復活した選手が多く、活躍する選手自身がその効果を体現している。



2019年、JABA東京都野球連盟に念願の正式登録。仕事と野球を両立しながら、東京代表として都市対抗野球大会で戦うことが目標だ。また、野球で培った身体動作や知識で選手が社会に貢献する。

障がいのある子どもの成長をサポート 磨き上げた技術で小児用の装具を作る

株式会社 y-brace



y-braceは、下肢（脚）や体幹（胴部）に使用する医療用装具の製造・販売・修理を行い、先天性の障がいのある小児用の装具を専門としていることが特徴である。山崎社長が以前から、関東の子どもの病院や施設を通して装具を製作しており、利用者との信頼関係が厚かったため、y-braceを板橋で立ち上げた。現在では、同社の装具が多く、の療育センターや大学病院で評判となり、義肢装

具士の有資格者をはじめ25名のスタッフを擁する会社へと発展した。

「子どもの装具は、骨の成長を促したり体全体のバランスを整えたりする必要があり、大人の装具とは違うやりがいがあります」と山崎社長。その分難しいが、意欲の高い若手が集まってきている。利用者からの信頼を未来にもつなげるため、『人材は宝』と働きやすい職場環境を整え、若手の育成に力を注いでいる。



山崎 誠 代表取締役

当社の強みは、
利用者と共に築いてきた
信頼関係！
信頼を大切に社会に
貢献していきます。

企業データ

板橋区中台1-29-13

[TEL] 03-3550-5042 [URL] <http://www.y-brace.com>

[創業] 2006年

[事業内容] 小児向け下肢装具※、体幹装具をメインとする補装具、日常生活用具の製作・修理・販売

※装具=病気やケガなどにより脚などに痛みや麻痺などが生じた時に、治療や症状を軽減するために装着する器具

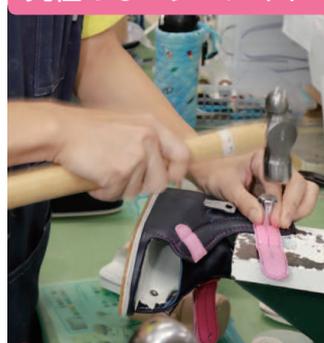


注目の商品 磨き上げた技術で作る！ 子どもたちが思い切り動ける装具



金属支柱付きや、プラスチック製など、一人ひとりの障がいの状態に合わせて作る。

究極のオーダーメイド



さまざまなパーツを組み合わせて、利用者者に合った機能を持つ装具に仕上げる。デザイン面での要望にも対応している。

カギは足型作り



病院で石膏を使って、利用者の足型を作り、それをもとに装具を作る。足型を正確に作れるかどうか装具の良し悪しを決定付ける。

装具用カバーシューズ



下肢装具の上から履くカバー。軽く、前が大きく開くので履きやすい。社員からアイデアを集めて決めたデザインは人気が高く、全国から注文が来る。

世界も注目！天然の竹や木を職人技で作る おしゃれで安全なテーブルウェア

仲吉商事 株式会社

竹や木を使ったテーブルウェアや雑貨品の製造・販売を行っている仲吉商事。大手のコンビニやレストランなど、全国約1万7000店舗で用いられる業務用の割り箸から食器まで、あらゆる竹・木製品を手がけてきた実績を持つ。

大手企業の品質や衛生面での厳しい基準をクリアしてきた同社が、屋田専務を中心に、その技術



屋田 高路 専務取締役

試行錯誤をしながら
オリジナルの
デザインと加工技術で
自分たちが欲しい
製品を作っています！



を生かした自社ブランドを立ち上げたのは2013年。子ども用の天然素材テーブルウェア・雑貨ブランド『agney^{アグニー}®』は板橋区のネウボラ事業で活用される育児パッケージのひとつにも採用され、天然竹の大人用酒器ブランド『RIVERET^{リヴェレット}®』は、高級ホテルでも使用されている。

「パリでの展示会にも呼ばれました。脱プラスチックをめざすヨーロッパからの引き合いは多いです」と屋田専務。2019年冬には、日常使いに最適な天然素材木製テーブルウェアブランド『taffeta^{タフタ}®』も加わり、さらなる発展が期待される。

企業データ

板橋区弥生町49-11 NYビル中板橋

【TEL】03-5926-3868 【URL】<http://www.nakayo-shi.jp/>

【創業】1988年

【事業内容】竹・木製品の製造販売、建材・フローリング・家具などの製造販売、日本製品の海外輸出事業



注目の商品

自然の風合い&食洗機で洗える便利さを持つテーブルウェア



『RIVERET®』の酒器。使用する接着剤も塗料もホルムアルデヒドを含まない安全な製品なので、安心できる贈り物。名入れのオーダーも多い。



器もフォークも、すべての商品は、機械で大きく切り出した後、職人が手作業で一つひとつ仕上げていく。

決めては“手”による仕上げ



塗装は“企業秘密”



水と油をはじき、食洗機で洗える独自の塗装は、経験とノウハウから生まれた。入社4年目の若手の目標は、塗装部門のベテラン上司だ。

商品の表示ラベルから半導体関連テープまで！ 私たちの暮らしを支える高い技術力



リンテック 株式会社

リンテックは粘着関連製品や特殊紙の総合メーカーで、業界のリーディングカンパニーだ。BtoBが中心だが、同社の製品は実は日常生活のさまざまなシーンで利用されている。例えば、粘着紙・粘着フィルムはシャンプーなどの日用品の表示ラベルに使われている。また、ファストフード店のポテトフライを包んでいるのは同社の耐油耐水紙

という油や水が染み出しにくい紙だ。さらに、スマートフォンなどの電子機器に搭載される半導体チップの製造工程でも、最先端技術を集めた特殊な粘着テープが活躍。そのほかにもガラス用のフィルムや、バスや電車を広告などで彩る大判粘着フィルムなど、そのラインナップは多岐にわたる。

板橋に拠点を移転してから80余年。日本国内のみならず、グローバルに展開する企業へと発展した今でも、“イノベーション（革新）”を大切に、さらなる飛躍をめざしている。

板橋の企業が
最先端の技術で、
暮らしを支えていることに
気付いてもらえたら
うれしいですね。



広報・IR室 吉田 知人 室長代理

企業データ

板橋区本町23-23

[TEL] 03-5248-7711 [URL] <http://www.lintec.co.jp/>

[創業] 1927年

[事業内容] 粘着関連製品（シール・ラベル用の粘着紙・粘着フィルム、ガラス飛散防止対策フィルム、半導体関連テープなど）、粘着関連装置、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどの開発・製造・販売



注目の商品 私たちの身の回りに深く浸透し、便利な暮らしを支えてくれる製品



研究開発に注力

最新鋭の設備を備えた研究所では、約200人のスタッフが、顧客の課題を解決する製品、独創的な製品の開発に励んでいる。



積み重ねた歴史が築いた技術力



前身の会社を板橋に設立した当時の本社工場。水を付けて貼るガムテープが粘着技術の原点となり、製紙から粘着・剥離加工まで一貫して対応できる現在の形に技術領域を広げていった。

地域社会から信頼される会社に



地域社会から信頼される会社であり続けるために、CSR活動を推進。板橋区在住の障がい者や近隣住民の方々を招いて「ふれあいコンサート」などを行っている。

地球に やさしい 製品です

エコな暮らしを
支える
新技術を開発！



環境保全のための
技術を確立し、
省エネに貢献

省エネルギーなどによって環境保全に努めることは、今後持続可能な社会を実現するためにも重要な課題です。板橋区には、さまざまな試行錯誤を重ね、環境保全のための技術を確立し、事業化した企業が数々あります。

宇宙技術を応用した塗る断熱材『ガイナ』 省エネルギーで環境保全に貢献

株式会社 日進産業

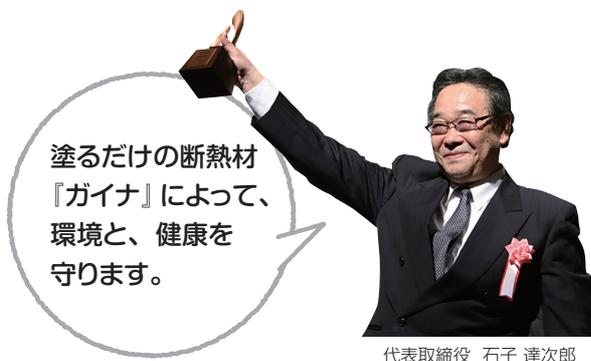


塗るだけで断熱と保温の効果があり、結露を防ぎ、音や臭いをシャットアウトする。そんな夢のような塗る断熱材が、日進産業が扱う『ガイナ』だ。ロケットや人工衛星を高温から守るJAXA(宇宙航空研究開発機構)の技術を応用して開発された塗料だ。

建物の断熱は断熱材を入れて熱を伝わりにくくするか、太陽光を反射する塗料を塗るのが一般的

だが、『ガイナ』は特殊セラミックが熱の移動を抑えるため、夏の暑さを軽減することはもちろん、冬には暖かい室温を逃さない効果も大きく、年間で平均23%もの省エネになるという。しかも、『ガイナ』が塗ってある限り、その効果が持続することも画期的だ。

世界にも類がなく、省エネ塗料の分野で常にシェアのトップを競う商品が、板橋を本拠とする企業から生まれたことは、なんとも誇らしい。



代表取締役 石子 達次郎

企業データ

板橋区蓮根3-1-15 ガイナ第1ビル

[TEL] 03-5916-4451 [URL] <https://www.gaina.co.jp>

[創業] 1977年

[事業内容] 機能性環境改善塗材の研究開発・製造・販売及び関連事業／断熱材、熱反射材の研究開発・製造・販売／機械器具設置工事及び関連事業／塗装工事業

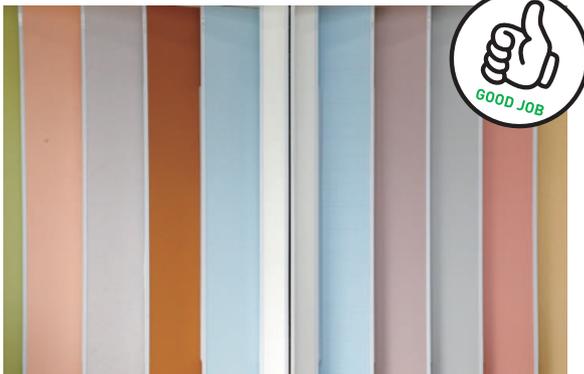


注目の商品

一年中、快適で健康に暮らせる住環境を支える塗料



断熱セラミック『ガイナ』。水性で無害。カラーバリエーションも豊富だ。



建物以外への応用も



『ガイナ』は、建物以外にも。サッカーシューズのインソールボードに使われ、人工芝からの熱を約6割もカットする。

優れた断熱効果を発揮



『ガイナ』の効果を実証する実験。屋根に一般塗料を塗った場合(左)に比べて、『ガイナ』を塗ると、室内の温度が10℃近く抑えられる(右)。

熱の移動を抑え、結露を防ぐ



『ガイナ』を塗った板(左)と、一般塗料を塗った板(右)に氷を置き、下から光を当てる。左は、熱がほとんど伝わらず、氷が溶けない。この原理で、結露を防ぐ効果がある。

バクテリアの働きによるアップサイクルで循環型社会の実現に貢献

株式会社 太陽油化



板橋製品技術大賞



バクテリアの働きによって土壌中の余剰アンモニアを分解し、田畑の土の環境を整え、植物が栄養を吸収しやすくすることで、農作物を丈夫においしく育てる植物活性剤『東京8（エイト）』。同じくバクテリアの働きによりアンモニアの臭気成分を分解・除去する微生物消臭剤『SKT-8』。いずれも、汚泥や廃油の処理を中心事業とする太陽油化の新規事業『東京バクテリアラボ』から誕生した画期的な商品だ。これらは、産業廃棄物を

リサイクルするばかりか、付加価値を高める“アップサイクル技術”として注目を集めている。もともと汚泥処理に利用していた微生物の働きをさらに活性化させようと、本格的に微生物の研究を始めた。以来、大学や農家などと連携して研究を重ね、2016年に商品化に成功した。

廃棄物を付加価値の高い商品に変えることは、循環型社会への貢献が大きい。商品名の『8』に『∞』という意味が込められているように、この事業は無限の可能性を秘めている。



森脇 和正 さん

廃棄物に付加価値を付けワンランク上のものにする技術で、環境保全に貢献します。

企業データ

板橋区三園2-12-2

[TEL] 03-3938-0022 [URL] <https://www.taiyo-yuka.com>

[創業] 1963年

[事業内容] 産業廃棄物収集運搬・処分、特別管理産業廃棄物収集運搬・処分、一般廃棄物処分、危険物施設メンテナンス、排水処理施設メンテナンス、石油製品販売業



注目の商品

微生物の働きを活性化させ、農作物の成長を促進させる



植物活性剤『東京8』。畑に散布することで、作物の生育が良くなる。（一番上段が『東京8』を使ったトマト）

さらなる可能性を追究



『東京バクテリアラボ』事業は、他にも健康分野や食品添加物などの分野へ広がる可能性を持つ。



微生物消臭剤『SKT-8』。



『産業交流展2019』みなさんにお披露目!

板橋区の環境問題への取り組みを象徴する『マップ式緑のカーテン』を開発

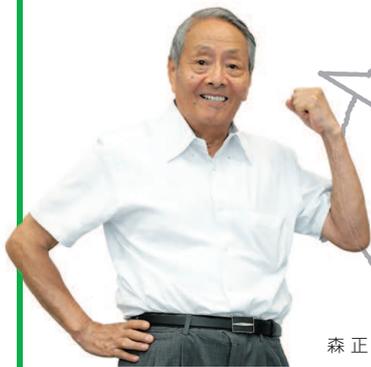
株式会社 マップ



緑のカーテンはゴーヤなどの植物により、夏の強い日差しや熱による室温の上昇を抑え、省エネルギー効果をもたらす植物のカーテンである。2004年、区立板橋第七小学校で行われた緑のカーテンづくりに関する活動が地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞したが、その成功を支えたのが都市緑化に特化した造園業を手がけるマップの技

術『マップ式緑のカーテン』だ。

その後、同社は、板橋区役所などの公共施設、民間企業や大学の施設など、多くの場所で大型の緑のカーテンを施工。森社長が「屋上緑化のために長年にわたり研究してきた技術です」と語るマップ式の特徴は自動灌水、つまり水のコントロールである。植物が給水量を決定し、電気も不要で、メンテナンスも月に1回程度で済むシンプルかつ高性能なシステムだ。この技術とともに、緑のカーテンが板橋発の文化としてさらに広がることが期待される。



最高で、高さ 28m
のカーテンを施工
した実績があります。
マップ式だからこそ
可能だと
自負しています。

森正 代表取締役

企業データ

板橋区三園2-14-7

[TEL] 03-3938-0880 [URL] <http://www.map-corp.com>

[創業] 1963年

[事業内容] 灌水装置に関する事業全般／都市緑化に関する事業全般／緑のカーテンに関する事業全般、各種の緑化・造園事業



注目の商品

水やり自動なのに電気いらず！ 安全・エコな自動灌水システム



板橋区立エコポリスセンターの『マップ式緑のカーテン』



優れた灌水システム

マップ式の要、底面灌水装置。植物の成長に応じ、必要な時に必要な分だけを与えることで、過不足ない灌水が可能になる。



メンテナンスは月1回



マップ式システムなら、毎日の水やりの人手も、コンピュータシステムも不要。

印象的な超大型タイプ



建物を覆うほどの大型・高密度のカーテンは、環境に良いだけでなく、教育や広告など幅広い用途で評価されている。

地球温暖化対策に必要不可欠な課題 企業の“省エネ”対策支援で多くの実績

日本カーボンマネジメント 株式会社



日本カーボンマネジメントは省エネルギー専門のコンサルティング会社。省エネルギー診断から対策の実施、さらに省エネ用の設備更新をする際の補助金活用まで、一貫したサポートを行っている。対象となるのは、製造業、小売店、飲食店、オフィスビルなど、エネルギーを使う企業すべて。すでに1000件以上の支援実績がある。



佐々木 謙 代表取締役社長

長期的な視点で、
企業の負担を軽くし、
競争力を高める
省エネ対策を
提案します！

省エネ対策の実務に特化した事業者は個人のノウハウのみに頼ったものが多いが、同社は組織化されたチームで対応できるのが特徴。また、省エネの設備更新は費用負担が生じるが、相手目線で競争力強化に貢献することと継続的なサポートを提供することで信頼を得てきた。「気候変動の分野で世界的な取り組みが進む今、まず取り組むべきは省エネです」と佐々木社長は断言する。今後、さらに社会で必要とされる存在へと発展していくことだろう。

企業データ

板橋区板橋1-42-18 ユニティフォーラム板橋4階

[TEL] 03-6912-4471 [URL] <http://j-cm.jp/>

[創業] 2010年

[事業内容] 温室効果ガス削減に関するコンサルティング（省エネルギー診断／削減シナリオ策定／削減対策実行支援／エネルギー管理支援／省エネ法等対応支援／省エネビジネス支援）



注目の活動

持続可能な社会の実現に不可欠！ 省エネ対策をサポート



照明（左）と空調（中）といった、テナントビルでの省エネ支援事例。今後は、情報通信技術（ICT）を用いて、エネルギーの使用状況を把握・管理し最適化するEMS（右）の導入推進に注力。

自律調和型の組織が目標



各人が自律することで生まれる相乗効果をめざす会社の構成は、男女半々。既成概念にとらわれない若手を多く採用し、育てている。

省エネを専門に！



文字通り、カーボンの排出削減対策における、マネジメント（企画・実行・評価・改善）を行う会社として、2010年に板橋で設立。

災害に備え、安全を守ります

地震、大雨、洪水など、自然災害が多いのが、日本の特徴です。ひとたび大きな災害が起これば、甚大な被害が出てしまいます。災害の被害を最小限におさえ、命を守るための技術は、わが国にとってなくてはならない技術です。



安心・安全な水を、 平時も非常時もみなさまのもとへ

株式会社 エイアイティ



設立以来、浄水器事業を手がけてきたエイアイティ。放射能に汚染された水から有害化学物質を除去できる逆浸透膜浄水システムの浄水器『ハイドロピュア』は、全国の幼稚園・保育園を中心に数千件の導入実績がある。

防災関連のものづくりを始めたきっかけは、東

日本大震災だった。「浄水器を使っていたら幼稚園も被災され、災害時に使える浄水器を開発してほしいと言われました」と田鍋社長。ただし、女性が多い職場なので、軽くて運びやすいことが条件だ。そこで開発したのが『きゃりーぴゅあぴゅあ[®]』。その名の通り、キャリー可能でピュアな水が得られると、幼稚園・保育園、市区町村の防災備品として導入が増えている。安全な飲料水を得にくい国も多い中、今後は海外貢献にも目を向けていく。

企業データ

板橋区志村2-11-19

[TEL] 03-3967-3251 [URL] <https://www.hydropure.co.jp>

[創業] 1983年

[事業内容] 浄水器・飲料水関連製品の輸入・卸・販売・製造／浄水器レンタル／防災浄水装置の製造販売／浄水器および関連装置の設置・メンテナンスなど



田鍋 文啓 代表取締役社長

まだ発展途上！
大手にはない
柔軟さで、
お客様の要望に
応えたい。



注目の商品

震災を機に開発した災害時用浄水器『きゃりーぴゅあぴゅあ[®]』



世界基準のシステム



1000万分の1mmの孔で有害化学物質を高率で除去する逆浸透膜のフィルタ、小型高圧ポンプなどが収まる。板橋製品技術大賞を受賞。

電源不要の手動式



電源や燃料は不要。プールの水や雨水、池の水などから、人力で1日に600Lの飲料水を作る。

Jr. は簡易版浄水器



ひと回り小さい『きゃりーぴゅあぴゅあ[®]Jr.』（右の2点）。熊本地震で生活用水が不足した経験から生まれた浄水器。

放射線を扱う施設でのヨウ素ガス除去に 役立つ『WAC フィルタ』を開発

株式会社 ワカイダ・エンジニアリング



ワカイダ・エンジニアリングの主力製品である『WAC フィルタ』は、活性炭素繊維製フィルタによって、放射性ヨウ素ガスを99.999%以上捕集する画期的な製品だ。長年、放射線関連製品の開発、製造に携わってきたなかで培われたノウハウを生かし、東京大学や東洋紡との連携によって製品化が実現した。東日本大震災での福島原発の

事故を契機にマスクに応用する研究を進め、世界でもほかに類のない簡易型マスクを開発した。現在では、原発の近隣自治体などで、災害時の緊急避難用マスクとして備蓄されている。

安全・防災分野での社会貢献をめざす同社では、新しい分野にも積極的に挑戦し、2017年にはビルなどの貯留槽に空気をトルネード状に噴射することで微生物を活性化させ、水質汚濁や悪臭を除去する『WACトルネーダー』を開発。環境保全の分野でも貢献度を高めている。

企業データ

板橋区坂下3-27-7

[TEL] 03-3969-3339 [URL] <http://www.wakaida.jp>

[創業] 1993年

[事業内容] 実験用放射性物質処理装置の開発・製造・販売、放射線施設の維持・管理業務、活性炭素繊維製フィルタの開発・製造・販売、水中微生物活性化装置の開発・製造・販売



若井田 靖夫 代表取締役

安全・防災分野での
経験をもとに、さらに
社会に貢献する製品や
サービスの開発に
挑みます！



注目の商品 独自の技術で防災や環境保全の分野での社会貢献をめざす



『WAC フィルタ』を使ったマスク。放射性ヨウ素ガスを除去する効果がある。



世界最高レベルのフィルタ



『WAC フィルタ』は、福島原発の事故の際に建屋内の放射線量の低減に貢献し、現在では原子力発電所や関連施設などで採用されている。



微生物を活性化

『WACトルネーダー』は、貯留槽内の排水の中に沈めて使う。新たに微生物を加える必要がないのも大きな特徴である。



独自技術による製品開発

会社の規模こそ大きくはないが、大手企業もまねできない画期的な製品を世に送り出している。

伝統野菜の復活や農業体験 伝統を受け継ぎ次世代へつなぐ

都会にありながら、意外や意外、板橋区では野菜栽培を中心とした農業も行われている。主な作物はだいこん、じゃがいも、キャベツ、白菜など。そのほか、植木のさつき、柿、ぶどう、みかんなどの果物、シクラメンなどの花卉類も栽培されている。

また、江戸時代にさかんに栽培されていた伝統野菜の復活への取り組みのほか、将来農業に従事したい人向けの体験学校や、若い世代向けの農業体験イベントも開催している。



毎年11月には、『板橋農業まつり』が開催される。板橋区内でとれた農作物で宝船がつけられる。

江戸東京野菜の復活に挑む



志村みの^{わせ}早生大根

中山道の清水坂あたりにいた農家が育成したことから、かつて清水夏大根と呼ばれた。冬大根の練馬大根と違い、夏の暑さに強い。べったら漬けの材料に向く、人気の品種だった。



2010年に復活した志村みの早生大根を使って生産されたドレッシング。辛味を生かしたおとなの味。

江戸東京野菜とは

江戸時代より江戸市中やその近郊で栽培されていた伝統的な野菜のこと。これらは江戸と東京の暮らしを支えてきたが、食生活の変化に伴い、昭和50年代に姿を消してしまったものが多い。その後、復活の試みが行われ、再び栽培されているものもある。板橋区やその近隣では、志村みの早生大根のほか、練馬大根、雑司が谷ナス、渡辺早生ごぼうなどがあげられる。

農業を守り承継していくための取り組み



成増農業体験学校

将来、区内で農業に携わる人材の育成や農業技術の継承を目的とし、農産物の生産に必要な基礎的な知識・技術を教える。

農業体験農園 親子でじゃがいも収穫体験

地元の農家の協力を得て、普段土に触れることの少ない子どもたちに、収穫の喜びを知ってもらうための体験イベント。



農業体験農園 だいこん・にんじん収穫体験



地元の農家の協力を得て、子どもたちがだいこんやにんじんの収穫を楽しめるイベントを『板橋農業まつり』にあわせて開催。

次世代を担う 若者たちのために

あしたの
子どもたちと
社会を育む



社会の
一員として
次世代の
育成に力を注ぐ

若い世代の豊かな感性を育てるには、家庭や学校だけにとどまらず、広く社会全体で担うことが望まれます。職場体験でものづくりに触れたり、自分の目で現場を見たりすることは、明日を担う若い世代に、強い印象として刻まれることでしょう。

絵本に特化した60年の歴史を誇る 子どものための絵本づくりワークショップ



大村製本 株式会社

大村製本は、絵本に特化した製本会社。シンプルな針金とじの製本に始まり、顧客の要望に応えながら、絵本には欠かせない中ミシンとじ、ページの一部をくりぬく型抜きなどの技術を駆使し、特殊な加工もできる製本会社へと発展した。世界中で読まれている『はらぺこあおむし』（偕成社）の日本語版も同社が手がけている。



齋藤 和明 代表取締役社長

絵本が好きな方、
絵本で子育てをする
方が増えてほしい！
『みんなでハッピー
になること』が
願いです。

『絵本のまち板橋』をめざす取り組みの中心的存在として活動にも力を入れ、2019年3月には自社に小学生の親子を招いたワークショップを開催。工場見学と本づくりを体験した子どもたちから「前は何をやっているかわからなかったけど、みんなが読んでいる本をここで作っているとわかったらすごく感動した」と言われてうれしかったと語る齋藤社長。『いたばしポローニヤ子ども絵本館』と連携して、地域の子どもたちに向けた社会科見学、ワークショップなど、今後もさらなる活動を広げていく。

企業データ

板橋区前野町3-43-7 【TEL】 03-3969-2361

【URL】 <https://www.omuraseihon.com/> 【創業】 1957年

【事業内容】 絵本の加工・製本／中ミシンとじ、型抜きの絵本や大型絵本など、出版社の要望に応じるなかで技術を培ってきた／福音館書店や偕成社など、絵本の代表的な出版社との取引が多い



注目の活動 絵本づくりワークショップを開催！『絵本のまち板橋』をリード



小学生の親子を招いてワークショップを開催。絵本を通じて板橋の活性化を図る活動に積極的に取り組んでいる。

イメージを形にする製本



編集の担当者からの要望に応え続けることで、技術力を蓄積。営業と工場の現場の連携の良さが、大きな強みになっている。

古い機械と最新の機械を融合



機械に少しずつ工夫を加えることで、古い機械、最新の機械、手作業を組み合わせて、『大村製本だから作れる本』を誕生させる。ベテランも若手も活躍中。

マットやモップのレンタル・販売で発展！ 小学生から大学生までが学びに訪れる



日本エンドレス 株式会社

日本エンドレスは、フロアマット、モップなど、オフィスや店舗を清潔で快適に保つ商品のレンタルおよび関連商品の販売を行っている。エンドレスグループはフランチャイズではなく、“製造直売システム”を採用し、商品企画から製造、販売、レンタル、クリーニングまで一貫してできる体制を整え、大きく成長してきた。そのため、そのビ



日本エンドレス本社

ジネスモデルへの注目度も高い。

社員教育に力を入れている同社は、未来を担う子どもたちの体験学習活動にも熱心に注力している。自分たちの地元の企業を知ってもらおうと、毎年、小中高校生の見学や体験を受け入れている。「職場体験をした小学生から手紙をもらいます。なかには『大きくなったら日本エンドレスに就職したい』という子もいますよ」と創業者の成毛社長は微笑む。働くことの意義や尊さを知る有意義な機会を提供してくれる存在だ。

企業データ

板橋区新河岸2-7-7 エンドレスビル

【TEL】 03-5383-6777 【URL】 <http://www.endress.co.jp/>

【創業】 1973年

【事業内容】 店舗の入り口に置くフロアマット、フロアモップ、オフィスのトイレに置くキャビネットタオルなどのレンタル、および関連商品の販売など



注目の活動 区内小中学生の職場体験学習、高校・大学生のインターンシップに注力



世界も注目するシステム



成長著しいイン
ドのエリート、
工科大学の大学
院生もグループ
会社の工場を見
学を訪れた。

小中学生の職場体験



板橋区内の児童・
生徒たちは、夏休
みなどを利用して3
日間、現場を体験
する。

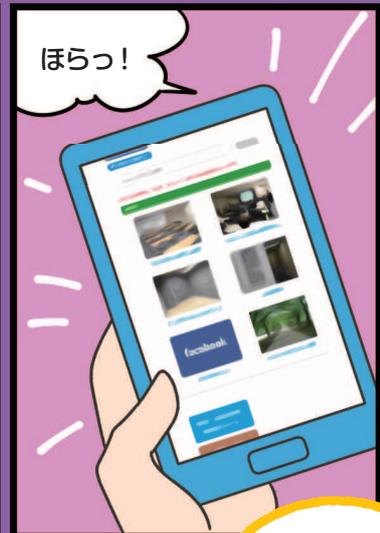
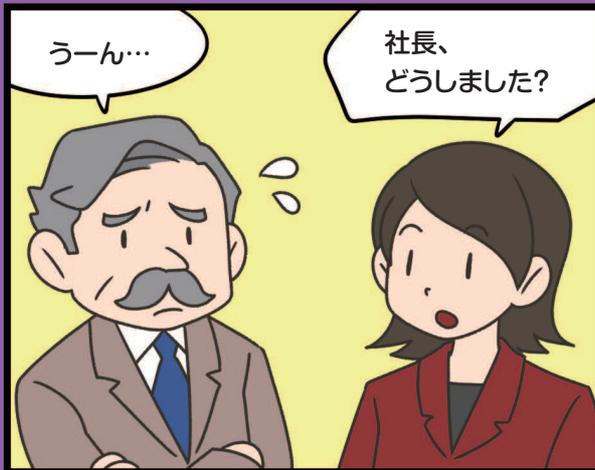
イキイキと働く社員



設備を充実させ、休日を増やし、残業を減らす取り組みを行ってきた同社。従業員の8割は板橋区在住とのこと。

企業を力強く 応援する！

企業の経営は、いつも順風満帆とは限りません。さまざまな困難に直面し、それらを乗り越えていかなければなりません。また、起業を志す際も、わからないことが山積するものです。板橋区には、企業や起業者に寄り添い、支える機関が充実しています。



企業とともに
考え、歩む

中小企業の支援で多くの実績を上げる 日本一の『板橋モデル』で企業に寄り添う



板橋区立企業活性化センター

中小企業を支援する公的な機関と聞くと、セミナーの開催、レンタルオフィスの提供といった支援が思い浮かぶだろう。しかし、板橋区立企業活性化センターの支援内容はそれだけにとどまらない。企業の経営内容に大きく踏み込み、経営者とともに立て直しを図る支援方式は日本一の実績を上げ、『板橋モデル』といわれるまでになっている。

同センターは、経営に行き詰まった中小企業を再建するため、計画書作成支援、資金調達、販路拡大といった支援まで行う、いわば官製の経営コンサルタントだ。

そもそも企業が経営悪化に至る大きな原因は、業績不振によって資金繰りに行き詰まることであ

る。だが、中小企業の経営者は金融機関との交渉には慣れておらず、どうすれば資金調達できるかさえわからない場合が少なくない。同センターに登録している300人を超える専門スタッフは、時には金融機関の担当者に一緒に会うなどし、相談のあった企業の立場に立った支援をする。現在の体制になってからの約10年間で、450社もの企業を経営改善させた実績を持っている。

さまざまな支援を陣頭に立って牽引する中嶋センター長は、「優良企業は自力でやっているので、経営の苦しい企業こそ支援すべきです。病気と同じで、正確な診察と適切な治療が必要です。企業を立て直すことで産業の活性化や税収増にもつながるのです」と言う。

創業支援、経営改善、
企業継承などの
支援も行っています。
悩むことがあれば、
気軽にご相談を。

中嶋 修 センター長



団体データ

板橋区舟渡1-13-10 アイ・タワー2階

【TEL】 03-5914-3145 【URL】 <https://www.itabashi-kigyou.jp>

【設立】 2002年

【事業内容】 創業支援（インキュベーション施設提供、各種セミナー開催、創業支援ネットワーク体制）、経営改善支援（日本一の経営改善支援体制）など



注目の活動 企業創業をハード面からも支援するレンタルスペース



5室ある研修室・会議室は、セミナーや研修、教室、説明会などに利用できる。区外の企業でも利用可能だ。

起業家を支援する貸しスペース



約7畳のオフィスを月額3万5000円程度でレンタルできるスタートアップオフィス（左）。また、起業準備スペースとして重宝するシェアードオフィス（上）は、机ひとつのスペースを月1万3000円で利用できる。



ものづくりの基本、“計測”を支援する

板橋産業技術支援センター

さまざまな計測検査機器を正しく使うことは、ものづくりの基本といえる。板橋産業技術支援センターは、計測検査機器を開放しその利用を行うことができるとともに、技術的相談に対応できる試験機関だ。

表面粗さ測定機、三次元測定機、デジタルマイクロスコープ、恒温恒湿槽など13種類の機器を備えており、精密測定、耐久試験、成分分析などの計測をすることができる。また、経験と知識の豊富な技術相談員による機器の操作方法などの指導や、ものづくり企業の製品開発を支援すべく、技術相談にも応じる。さらに、東京都立産業技術研究センターともインターネットを通じて相談をすることも可能だ。

『板橋のものづくり』をバックアップしている、頼りがいのある機関だ。



計測機器の 使い方を説明



専門知識を持つ相談員によるアドバイスも充実。

団体データ

板橋区舟渡3-5-8 ものづくり研究開発連携センター第一ビル 4階
[TEL] 03-3960-2800 [URL] http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/040/040523.html
[設立] 2012年 [事業内容] 計測検査機器利用／技術的相談への対応

力を入れている項目

企業
支援

板橋区内の企業との連携で新産業を育成

理化学研究所 板橋分室 (理研板橋連携研究センター)



板橋区と共同研究契約を締結



鏡面加工の技術から未来の新技术を開拓する。



団体データ

板橋区舟渡3-22-4 ものづくり研究開発連携センター第二ビル102・204 [TEL] 03-5918-7613 [URL] http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/099/099648.html [設立] 2015年
[事業内容] 新製品や新技術の開発、実用化、技術支援／新産業の育成

素材に機能や形を与える『素形材』は、ものづくりの基本である。国立研究開発法人理化学研究所の大森素形材工学研究室では、素形材にブレイクスルーをもたらす革新的な新加工技術の研究開発を行い、その応用研究と実用システムの開発を進めている。特に同研究室で開発したELID研削法による鏡面加工技術は、医療や宇宙分野など、幅広い分野での応用が期待されている。

同研究室は、板橋区と共同研究契約を締結。理化学研究所の新技术（シーズ）と区内関連企業のニーズを基に、新製品や新技術の開発と実用化をめざし、共同研究や技術支援を通じて区内企業の新産業育成を図っている。

力を入れている項目

企業
支援

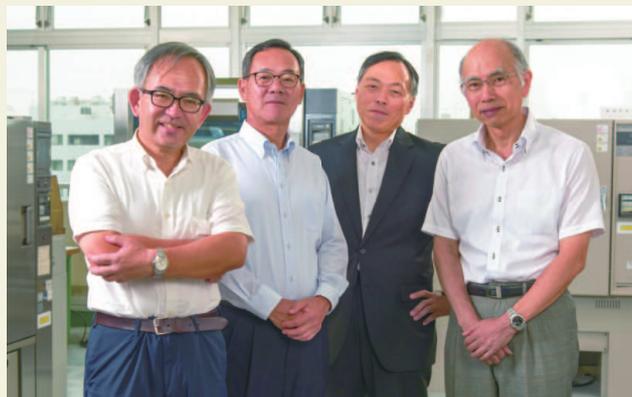
掲載企業・団体一覧

(50音順、「株式会社」など法人組織名は除く)

板橋区立企業活性化センター	47
板橋産業技術支援センター	48
有限会社一木医療器製作所	16
株式会社エイアイティ	40
大村製本株式会社	44
株式会社オフセット岩村	12
株式会社技光堂	18
株式会社清原光学	7
三興塗料株式会社	24
株式会社サンレモン	25
株式会社太陽油化	36
株式会社ダイワハイテックス	21
株式会社タニタ	29
株式会社デンテック	15
株式会社TOK	23
凸版印刷株式会社	11
株式会社トプコン	6
仲吉商事株式会社	32
株式会社日進産業	35
日本エンドレス株式会社	45
日本カーボンマネジメント株式会社	38
日本特殊光学樹脂株式会社	9
ニュースサービス日経常盤台	26
株式会社ヒカリ	19
ホグレル株式会社	30
株式会社マップ	37
柳澤管楽器株式会社	20
株式会社ユーカリ光学研究所	9
理化学研究所 板橋分室 (理研板橋連携研究センター)	48
リンテック株式会社	33
株式会社y-brace	31
株式会社ワカイダ・エンジニアリング	41

企業とともに。 全力応援宣言

板橋区と板橋区産業振興公社は、さまざまな支援策をご用意しています。経営に関するお悩みや受発注等の企業活動に関することなど、なんでもお気軽にご相談ください。



企業サポートコーディネーター

専門知識とノウハウを持った企業サポートコーディネーターが企業の皆様に全力でサポートします。

MENU

経営販路開拓サポート

●専門家訪問相談、勉強会などへの講師派遣

経営上の悩みや課題、勉強会など、要望に応じて専門家を派遣します。

●企業サポートコーディネーター(受発注相談)

取引先企業の紹介や企業活動に関する相談・情報提供を行います。

●補助金・助成金申請サポート

国や東京都などが実施する中小企業向けの補助金の申請時期に合わせて、特別相談窓口を開設します。

●ビジネスチャンス開拓支援

受発注機会の拡大のため、個別訪問を行って課題解決にあたります。

●ものづくり企業商談会

販路拡大・ネットワーク構築、付加価値の高い製品開発を応援します。

●簡易型BCP策定支援

BCP(事業継続計画)の策定を支援します。

板橋区産業振興公社ホームページ

公社ホームページでは、皆様のお役に立つ情報をたくさん掲載しています。ぜひご覧ください。



展示会・セミナー

●いたばし産業見本市

製造業のためのビジネス展示会を開催します。



●専門展示会への出展

企業の受発注促進のため、区外の専門展示会に板橋区ブースを出展します。

●無料製品展示スペース

区内施設の展示スペースの一部を区内企業の製品展示のために貸し出しています。

●各種セミナー

ビジネスに関するさまざまなテーマでセミナーを開催しています。

●板橋区産業データベース

取引先や業務パートナーの検索に活用していただくため、企業情報を公開しています。

●産業情報メールマガジン

「いた×きた産活ジャーナル」

産業情報中心のメールマガジンで経営をサポートします。

ものづくり 技術サポート

●医工連携アドバイザー派遣

医療機器産業への参入及び医療関連機器の開発に関心のある企業に専門家を派遣します。

●産学公連携訪問相談

製品開発途上の技術的課題などを解決するため、大学や支援機関の研究者・技術者がサポートします。

まずはお気軽にご相談を

ワンストップ相談窓口

電話またはホームページのお問い合わせフォームからご相談いただけます。お悩みやご相談ごとは、お気軽に。

所在地 板橋区板橋2-65-6

板橋区情報処理センター5F

電話 03-3579-2281

ホームページ <https://itabashi-kohsha.com>



板橋区産業振興公社

フェイスブック



https://www.facebook.com/itabashi.kohsha?_rdr



ツイッター



https://twitter.com/Itabashi_kohsha



板橋区産業データベース

区内製造業を中心に企業情報を公開

<https://www.itabashi-industry.jp>



補助金・助成金

●展示会出展助成

展示会への出展経費の一部を助成します。

●開発チャレンジ補助金

新製品・新技術の開発を資金と技術の両面でサポートします。

●知的財産権・ISO認証取得支援

知的財産権やISO認証の取得に係る経費の一部を助成します。

ほか

ハイライフいたばしサービスセンター

●ハイライフいたばし（勤労者福利共済事業）

中小企業の事業主・従業員の皆様を対象に、お祝い金などの給付事業やレジャー施設などの割引あっせんなど、多彩な福利厚生メニューを提供しています。

●資格取得支援講座

勤労者などの能力開発をサポートする資格取得に向けた各種講座を行います。

コンテスト・表彰事業

●板橋製品

技術大賞

優れた製品や技術を顕彰し、区内外に発信します。



板橋製品技術大賞



●いたばし

働きがいの

ある会社賞

働きがいのある元気な会社を顕彰し、区内外に発信します。



板橋区産業振興課の事業

●産業融資制度

低利で安定的な資金調達を支援します。

●創業支援融資

区内での創業に必要な融資を低利でありません。

●経営相談

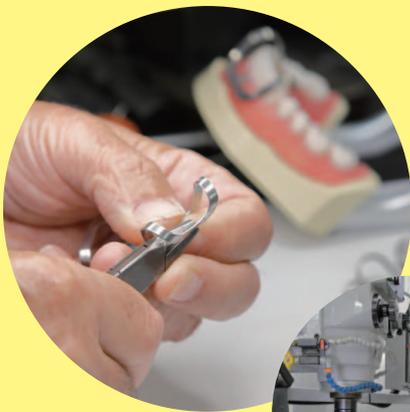
経営や資金繰り等の相談に中小企業診断士が適切な助言・アドバイスをを行います。

●ものづくり企業地域共生推進助成金

工場の操業環境の改善・オープンスペースの整備・耐震補強に係る費用の一部を助成します。

●知財臨時支援窓口

知的財産権に関する無料相談窓口を開設しています。



<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>

産業からひもとく“今”と“未来”
やるね 板橋

令和2年3月発行
編集・発行 公益財団法人 板橋区産業振興公社
板橋区産業経済部
〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-65-6
<https://itabashi-kohsha.com>
編集協力 株式会社学研プラス

- ・森林資源保護のため、再生紙を使用しています。
- ・環境にやさしい、植物油のインキを使って印刷しています。